

CASBEE®熊本《新築》【性能表示】

■ 建物概要			■ 外観
建物名称	コカ・コーラボトラーズジャパン株式会社	階数	地上2F
建設地	熊本県熊本市南区南高江3丁目187	構造	S造
用途地域	準工業地域、防火指定なし	平均居住人員	50 人
気候区分	6地域	年間使用時間	3,000 時間/年
建物用途	事務所,工場,	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2019年2月 竣工	評価の実施日	2018年7月18日
敷地面積	31,766 m ²	作成者	権藤 浩
建築面積	2,050 m ²	確認日	2018年7月20日
延床面積	3,092 m ²	確認者	松尾建設株式会社一級建築士事務所

1 CASBEE評価結果

■ 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

★★★★★

BEE = 0.7

BEE (環境効率) = $\frac{Q \text{ (環境品質)}}{L \text{ (環境負荷)}}$

■ 環境効率評価基準

ランク	ランク表示	評価	判定値	
			BEE値	Q値
S	★★★★★	素晴らしい	3.0以上	50以上
A	★★★★★	大変良い	1.5以上3.0未満	—
B+	★★★★	良い	1.0以上1.5未満	—
B-	★★★	やや劣る	0.5以上1.0未満	—
C	★	劣る	0.5未満	—

■ ライフサイクルCO₂排出性能 (ランク表示)

☆☆☆☆☆

排出率

99%

■ ライフサイクルCO₂ 排出性能評価基準

判定値 (排出率)	ランク表示
30%以下	☆☆☆☆☆
30%超60%以下	☆☆☆☆
60%超80%以下	☆☆☆
80%超100%以下	☆☆
100%超	☆

2 熊本県重点評価結果

■ 重点事項総合評価

温熱化

温熱化

温熱化

69

	評価点	■ 熊本県重点評価基準												
【重点事項1】 温室効果ガス排出量削減の推進	72.5	<table><thead><tr><th>判定値 (評価点)</th><th>ランク表示</th></tr></thead><tbody><tr><td>100点以上</td><td></td></tr><tr><td>80点以上100点未満</td><td></td></tr><tr><td>60点以上80点未満</td><td></td></tr><tr><td>40点以上60点未満</td><td></td></tr><tr><td>40点未満</td><td></td></tr></tbody></table>	判定値 (評価点)	ランク表示	100点以上		80点以上100点未満		60点以上80点未満		40点以上60点未満		40点未満	
判定値 (評価点)	ランク表示													
100点以上														
80点以上100点未満														
60点以上80点未満														
40点以上60点未満														
40点未満														
【重点事項2】 安全安心で暮らしやすい社会の実現	66.2													
【重点事項3】 県の地域資源の有効活用と保全	60.0													
【重点事項4】 循環型社会の実現	72.7													

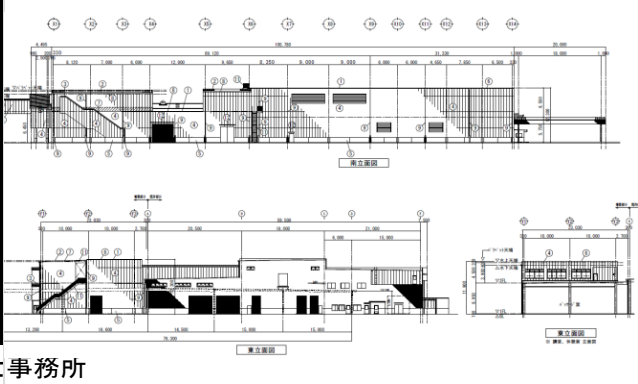
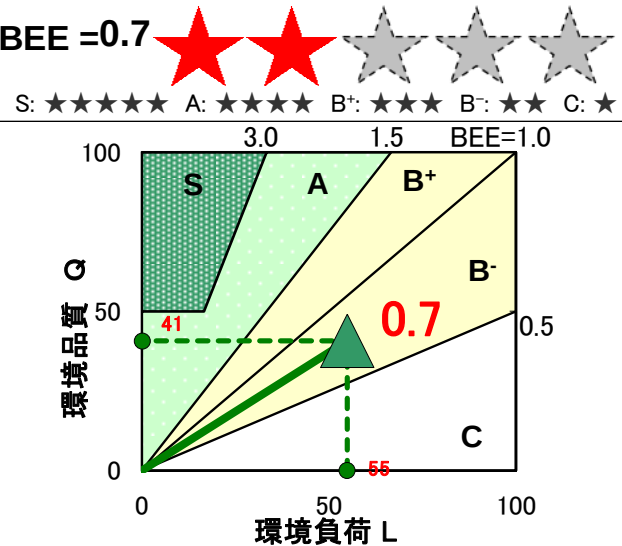
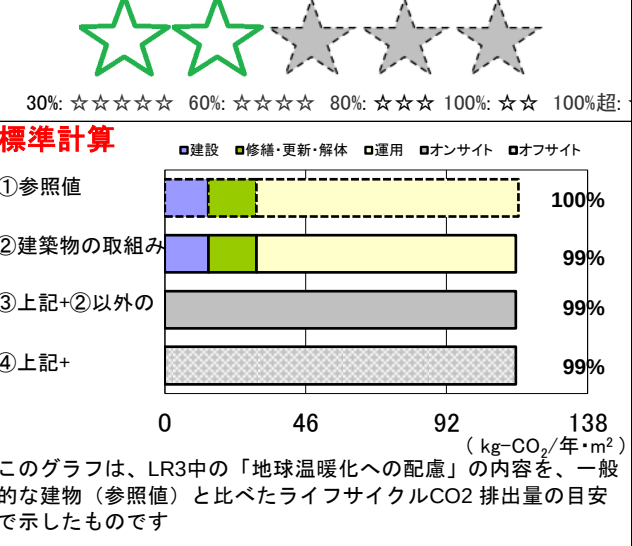
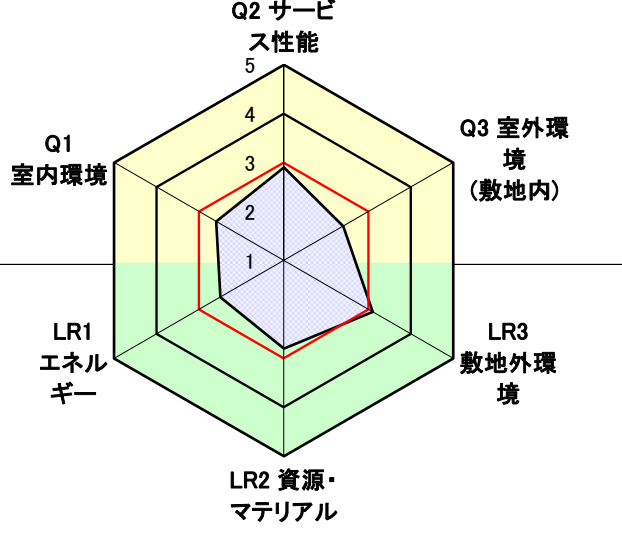
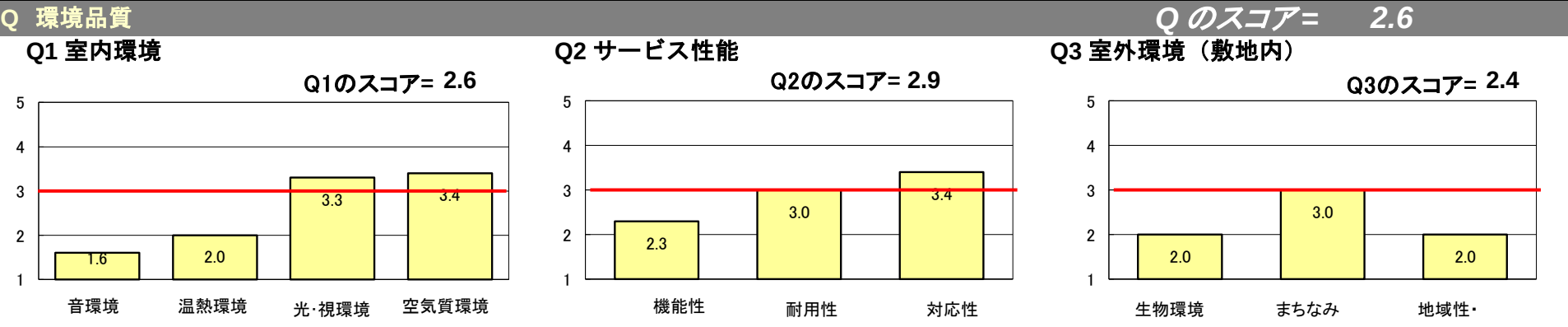
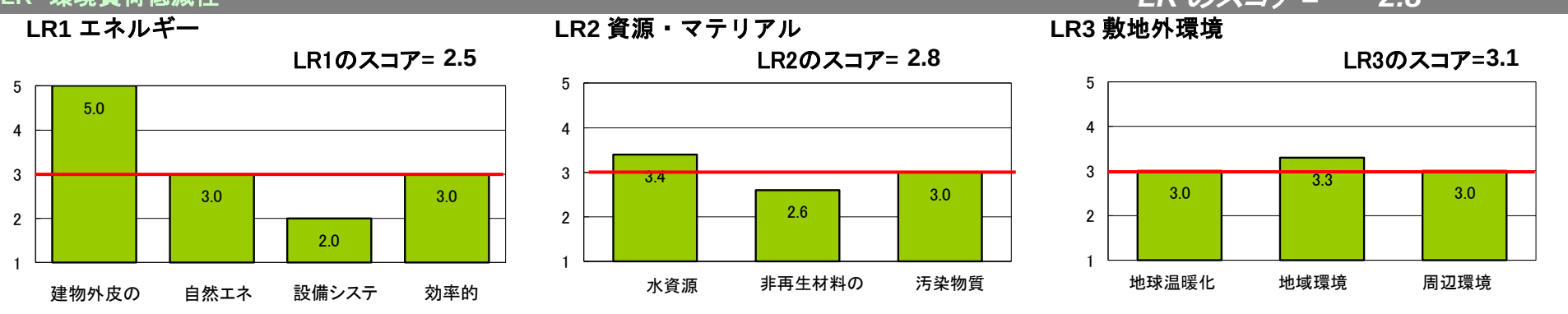
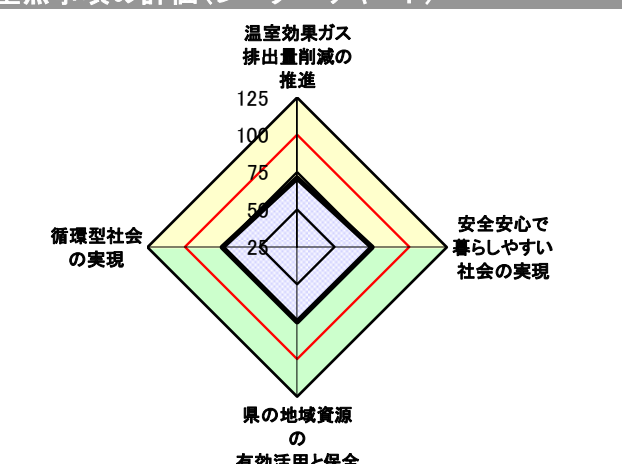
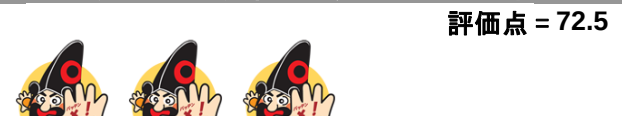
※評価点は、100点以上が推奨です。

Page : 1/6

Sheet : 1/5

CASBEE[®]-建築(新築) | 評価結果 |

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)

1-1 建物概要			1-2 外観		
建物名称	コカ・コーラボトラーズジャパン株式会社	階数			
建設地	熊本県熊本市南区南高江3丁目18	構造			
用途地域	準工業地域、防火指定なし	平均居住人員			
地域区分	6地域	年間使用時間			
建物用途	事務所,工場,	評価の段階	実施設計段階評価		
竣工年	2019年2月 竣工	評価の実施日	2018年7月18日		
敷地面積	31,766 m ²	作成者	権藤 浩		
建築面積	2,050 m ²	確認日	2018年7月20日		
延床面積	3,092 m ²	確認者	松尾建設株式会社一級建築士事務所		
2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)			2-2 ライフサイクルCO ₂ (温暖化影響チャート)		2-3 大項目の評価(レーダーチャート)
BEE =0.7 			標準計算 		
2-4 中項目の評価(バーチャート)			Q のスコア = 2.6 		
LR 環境負荷低減性			LR のスコア = 2.8 		
3 設計上の配慮事項			重点事項の評価(レーダーチャート)		
重点事項総合評価					
 重点事項1: 温室効果ガス排出量削減の推進 評価点 = 72.5			 重点事項2: 安全安心で暮らしやすい社会の実現 評価点 = 66.2		
 重点事項3: 県の地域資源の有効活用と保全 評価点 = 60.0			 重点事項4: 循環型社会の実現 評価点 = 72.7		

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE[®] 熊本《新築》【配慮事項】

4 設計上の配慮事項

総合

外壁に断熱性能のよいALC版、屋根二重折版に断熱施工することにより建物外皮の熱負荷抑制。
敷地周辺は既存緑化を保存し、まちなみの景観に配慮する。

Q1 室内環境

内装材に吸音材、F☆☆☆☆を採用することで、快適な室内空間に配慮。

Q2 サービス性能

長寿命な内装材を採用。
建物の階高,空間の形状,自由さを考慮しゆとりある空間としている。

Q3 室外環境（敷地内）

敷地周辺は既存緑化を保存し、まちなみの景観に配慮する。

LR1 エネルギー

外壁に断熱性能のよいALC版、屋根二重折版に断熱施工することにより建物外皮の熱負荷抑制。

LR2 資源・マテリアル

節水器具の採用。

LR3 敷地外環境

燃焼設備を使用しないことにより大気汚染防止に努める。

その他

特になし。

CASBEE-建築(新築)2016年版			■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版					
コカ・コーポラトラーズジャパン株式会社熊本工場 新水ライン導入増築工事			欄に数値またはコメントを記入		■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)			
スコアシート			実施設計段階					
配慮項目			環境配慮設計の概要記入欄				全体	
					評価点	重み係数		評価点
Q 建築物の環境品質							2.6	
Q1 室内環境				0.32		-	2.6	
1 音環境			1.6	0.15	-	-	1.6	
1.1 室内騒音レベル			1.0	0.40	-	-		
1.2 遮音			1.0	0.40	-	-		
1 開口部遮音性能			1.0	0.60	-	-		
2 界壁遮音性能			1.0	0.40	-	-		
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)			-	-	-	-		
4 界床遮音性能(重量衝撃源)			-	-	-	-		
1.3 吸音			天井:岩綿吸音板、床:カーペット		4.0	0.20	-	-
2 温熱環境			2.0	0.35	-	-	2.0	
2.1 室温制御			3.0	0.50	-	-		
1 室温			3.0	0.38	-	-		
2 外皮性能			3.0	0.25	-	-		
3 ゾーン別制御性			3.0	0.38	-	-		
2.2 湿度制御			1.0	0.20	-	-		
2.3 空調方式			1.0	0.30	-	-		
3 光・視環境			3.3	0.25	-	-	3.3	
3.1 昼光利用			4.2	0.30	-	-		
1 昼光率			昼光率:4.8%		5.0	0.60		
2 方位別開口					-	-		
3 昼光利用設備					3.0	0.40		
3.2 グレア対策					3.0	0.30		
1 昼光制御					3.0	1.00		
3.3 照度					3.0	0.15		
3.4 照明制御					3.0	0.25		
4 空気質環境			3.4	0.25	-	-		3.4
4.1 発生源対策			4.0	0.50	-	-		
1 化学汚染物質			内装材は全てF☆☆☆☆を採用		4.0	1.00		
4.2 換気			4.0	0.30	-	-		
1 換気量			3.0	0.33	-	-		
2 自然換気性能			有効開口面積:2.821㎡>1/15		4.0	0.33		
3 取り入れ外気への配慮			給気、排気を異なる方位に設置している		5.0	0.33		
4.3 運用管理			1.0	0.20	-	-		
1 CO ₂ の監視			-	-	-	-		
2 喫煙の制御			1.0	1.00	-	-		
Q2 サービス性能			-	0.30	-	-	2.9	
1 機能性			2.3	0.40	-	-	2.3	
1.1 機能性・使いやすさ			1.6	0.40	-	-		
1 広さ・収納性			1.0	0.33	-	-		
2 高度情報通信設備対応			1.0	0.33	-	-		
3 バリアフリー計画			3.0	0.33	-	-		
1.2 心理性・快適性			2.6	0.30	-	-		
1 広さ感・景観			天井高:3.0m		5.0	0.33		
2 リフレッシュスペース			2.0	0.33	-	-		
3 内装計画			1.0	0.33	-	-		
1.3 維持管理			3.0	0.30	-	-		
1 維持管理に配慮した設計			3.0	0.50	-	-		
2 維持管理用機能の確保			3.0	0.50	-	-		
2 耐用性・信頼性			3.0	0.30	-	-	3.0	
2.1 耐震・免震・制震・制振			3.0	0.50	-	-		
1 耐震性(建物のこわれにくさ)			3.0	0.80	-	-		
2 免震・制震・制振性能			3.0	0.20	-	-		
2.2 部品・部材の耐用年数			3.3	0.30	-	-		
1 躯体材料の耐用年数			3.0	0.20	-	-		
2 外壁仕上材の補修必要間隔			2.0	0.20	-	-		
3 主要内装仕上材の更新必要間隔			床:塩ビシート、カーペット20年、壁・天井:ボード類30年		4.0	0.10		
4 空調換気ダクトの更新必要間隔			3.0	0.10	-	-		
5 空調・給排水配管の更新必要間隔			給水・排水管:VP、給湯管:HTVP管、2種類以上Bを使用。Eは不使用。		5.0	0.20		
6 主要設備機器の更新必要間隔			3.0	0.20	-	-		
2.4 信頼性			3.0	0.20	-	-		
1 空調・換気設備			3.0	0.20	-	-		
2 給排水・衛生設備			3.0	0.20	-	-		
3 電気設備			3.0	0.20	-	-		
4 機械・配管支持方法			3.0	0.20	-	-		
5 通信・情報設備			3.0	0.20	-	-		
3 対応性・更新性			3.4	0.30	-	-	3.4	
3.1 空間のゆとり			4.6	0.30	-	-		
1 階高のゆとり			事務所:3.9m、工場:6.95m		5.0	0.60		
2 空間の形状・自由さ			壁長さ比率:0.130		4.0	0.40		
3.2 荷重のゆとり			3.0	0.30	-	-		
3.3 設備の更新性			3.0	0.40	-	-		
1 空調配管の更新性			3.0	0.20	-	-		
2 給排水管の更新性			3.0	0.20	-	-		
3 電気配線の更新性			3.0	0.10	-	-		
4 通信配線の更新性			3.0	0.10	-	-		
5 設備機器の更新性			3.0	0.20	-	-		
6 バックアップスペースの確保			3.0	0.20	-	-		

Q3 室外環境(敷地内)		—	0.38	-	-	2.4
1 生物環境の保全と創出		2.0	0.30	-	-	2.0
2 まちなみ・景観への配慮		3.0	0.40	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮		2.0	0.30	-	-	2.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		2.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上		2.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-		-	2.8
LR1 エネルギー		—	0.40	-	-	2.5
1 建物外皮の熱負荷抑制	BPI _m =0.74	5.0	0.05	-	-	5.0
2 自然エネルギー利用		3.0	0.12	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化	[BEI][BEI _m] = 0.99	2.0	0.59	-	-	2.0
4 効率的運用		3.0	0.24	-	-	3.0
	集合住宅以外の評価	3.0	1.00	-	-	
	4.1 モニタリング	3.0	0.50	-	-	
	4.2 運用管理体制	3.0	0.50	-	-	
	集合住宅の評価	-	-	-	-	
	4.1 モニタリング	-	-	-	-	
	4.2 運用管理体制	-	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル		—	0.30	-	-	2.8
1 水資源保護		3.4	0.20	-	-	3.4
1.1 節水	大便器・小便器:節水器具、洗面:自動水栓を採用	4.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用		3.0	0.60	-	-	
	1 雨水利用システム導入の有無	3.0	0.70	-	-	
	2 雑排水等利用システム導入の有無	3.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減		2.6	0.60	-	-	2.6
2.1 材料使用量の削減		2.0	0.11	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用		3.0	0.22	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	—	3.0	0.22	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	—	1.0	0.22	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材		-	-	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	躯体+軽鉄+仕上げ材で容易に分別可能	4.0	0.22	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避		3.0	0.20	-	-	3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用		3.0	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避		3.0	0.70	-	-	
	1 消火剤	-	-	-	-	
	2 発泡剤(断熱材等)	3.0	0.50	-	-	
	3 冷媒	3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境		—	0.30	-	-	3.1
1 地球温暖化への配慮		3.0	0.33	-	-	3.0
2 地域環境への配慮		3.3	0.33	-	-	3.3
2.1 大気汚染防止	燃焼設備使用無し	5.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善		3.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制		2.5	0.25	-	-	
	1 雨水排水負荷低減	3.0	0.25	-	-	
	2 污水处理負荷抑制	3.0	0.25	-	-	
	3 交通負荷抑制	3.0	0.25	-	-	
	4 廃棄物処理負荷抑制	1.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮		3.0	0.33	-	-	3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止		3.0	0.40	-	-	
	1 騒音	3.0	1.00	-	-	
	2 振動	-	-	-	-	
	3 悪臭	-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制		3.0	0.40	-	-	
	1 風害の抑制	3.0	0.70	-	-	
	2 砂塵の抑制	1.0	-	-	-	
	3 日照阻害の抑制	3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制		3.0	0.20	-	-	
	1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	3.0	0.70	-	-	
	2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策	3.0	0.30	-	-	

熊本県重点評価結果スコアシート

実施設計段階

建物名称

コカ・コーラボトラーズジャパン株式会社熊本工場 新水ライン導入増築工事

■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)

■使用評価マニュアル: CASBEE熊本《新築》2017年版

★熊本県重点評価結果				総合評価点		69
重点事項				評価点	重点事項 重み係数	評価配点
重点項目(配慮項目)		スコア	重み 係数			
① 温室効果ガス排出量削減の推進				72.5	0.40	29.00
Q1-2.1.2	外皮性能	3.0	0.05			
Q1-3.1.3	昼光利用設備	3.0	0.05			
Q1-3.2.1	昼光制御	3.0	0.05			
LR1-1	建物外皮の熱負荷抑制	5.0	0.15			
LR1-2	自然エネルギー利用	3.0	0.20			
LR1-3	設備システムの高効率化	2.0	0.30			
LR2-2.1	材料使用量の削減	2.0	0.10			
LR3-2.3.3	交通負荷抑制	3.0	0.10			
② 安全安心で暮らしやすい社会の実現				66.2	0.20	13.24
Q2-1.1.3	バリアフリー計画	3.0	0.25			
Q2-2.1.1	耐震性	3.0	0.25			
Q3-1	生物環境の保全と創出	2.0	0.15			
Q3-3	地域性・アメニティへの配慮	2.0	0.20			
LR3-2.2	温熱環境悪化の改善	3.0	0.15			
③ 県の地域資源の有効活用と保全				60	0.20	12.00
Q3-2	まちなみ・景観への配慮	3.0	0.20			
LR2-1.1	節水	4.0	0.30			
LR2-1.2.1	雨水利用システム導入	3.0	0.20			
LR2-2.5	持続可能な森林から産出された木材	0.0	0.30			
④ 循環型社会の実現				72.7	0.20	14.54
Q2-2.2	部品・部材の耐用年数	3.3	0.30			
Q2-3	対応性・更新性	3.4	0.30			
LR2-2.2	既存建築躯体等の継続使用	3.0	0.10			
LR2-2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	3.0	0.15			
LR2-2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	1.0	0.15			

■評価点算出式

評価点は、以下の方法により算出しています。

◆総合評価結果

総合評価点 = (各重点事項の評価点 × 各重点事項の重み係数) の総和
 ※重み係数の総和は、「1」であること。

◆各重点事項(①～④の項目)

評価点 = (各重点項目のスコア × 各重点項目の重み係数) の総和 × (5/4) × 20
 ※重み係数の総和は、「1」であること。
 ※(5/4) × 20 : スコア4点を評価点100点に変換するスケーリング定数